

～多くの仲間とともに現在を変え未来を創造するために～

2025年8月

KSKQ ファースト・ラン NO.120

～ために ではなく ともに～



みの
おひやつ
けい
みの
お
箕面百景
箕面の
滝

※ H P ではカラー版でご覧いただけます。

- 理事ご挨拶
- 重度訪問介護従業者養成研修講座報告
- 分身ロボットOriHime 紹介
- 新人挨拶・会員募集
- グループホーム結 イベント報告
- 梅田芸術劇場バリアフリー報告

△ 目次 ▽
もくじ

一九九一年九月三日 第三種郵便物承認 每月(1・2・3・5・6・8の日)発行 定価百円

これまで続けてきた當法人理事紹介コーナーですが、今回は高田浩志理事の挨拶となります。高田さんは、長年推進協理事として協力及び助言指導して頂くとともに、障害当事者の立場から「ともに暮らせる社会」の実現に向けて数多くの発信行動をされています。また、116号よりご紹介しました理事の挨拶は、今回で以上となります。ご協力いただきました理事の方々には、この場を借りてお礼申し上げます。それでは、高田さんご挨拶よろしくお願いします！

理事ご挨拶

皆さん、こんにちは。推進協理事の高田浩志です。

私は一般財団法人箕面市障害者事業団の事業課企画係（以後事業団と表記）で、主に『ヒロシのつぶやき』というブログページの執筆の仕事や、他市から事業団に視察や見学などで来られた方々に事業団の大まかな説明をしたりしています。

さらに、私のような医療的ケアや24時間身体介護が欠かせない最重度の障害当事者であってもその障害に見合った障害者用パソコンソフトや周辺機器を駆使し、また、職場での身体介護（トイレ介助や食事介助、喀痰吸引介助、コミュニケーション介助等々）が出来る人が何人かいれば仕事ができることを体全体でアピールしています。

それでもう一つ、個人的にやっている活動は推進協の理事の一員として3か月に一度ぐらいの頻度で推進協理事会にリモート出席し、推進協にまつわることを他の理事の皆さんと話し合いをしたり、重度訪問講座の講師として講座に集まつた皆さんに一障害当事者としていろいろなお話をさせて頂いたりと細々と活動しております。

一方で昨年冬と真夏の2回も入院生活を経験してしまい、現在は職場復帰を目指し医療的ケアをはじめ重度訪問介護や訪問入浴、そして今年6月から週2回、新規開所の生活介護事業所「いろはもみじ萱野」に通所したりと、あらゆる福祉サービスをいっぱい利用して生活しています。

そんな中にあって、推進協スイミーのヘルパーの皆さんには、自立生活を始める20年ぐらい前からのお付き合いで、私のややこしい介助をタントンとしたり、時にはテレビのジョークに二人で吹き出すこともあったりと、私とスイミーのヘルパーの皆さんや他市のヘルパー事業所の皆さんと二人三脚で生活をしています。

また、最近気になることは、推進協に限ったことではないと思いますが「このごろ重訪のヘルパー不足が目に見える形で迫つて来ている」と市内の同じ重訪の友達からもよくよく聞いています。

この問題は、一障害当事者の小さい力では出来る範囲が非常に限られるので、障害者団体のイデオロギーの違いは脇に置いて、各障害者団体が力を集めて重訪講座をはじめとする啓発活動等を、一緒に出来たら幅広いヘルパー人材が集まってくれると思っています。では、いつの日にかお会いしましょう！！！

（高田 浩志）

じゅうどほうもんかい ごじゅうぎょうしやようせいけんしゅう こう ざほうこく
重度訪問介護従業者養成研修講座報告

しょしんわす けんしゅうこうざ
～「初心忘るべからず」だった研修講座～



2025年3月22日(土)、23日(日)、29日(土)、
 30日(日)の4日間にかけて「重度訪問介護従業者養成
 研修講座」を開催しましたので、ご報告させていただきます。
 この講座は当法人の目玉ともいえる講座で、長時間介助を
 必要とする障害者の方のサポートをするための資格を取得
 できます。北摂では当法人しか実施していないのは密かな
 自慢(^^)v

今回は女性6名、男性2名の計8名、30代～60代の幅広い年代の受講となりました。講座内容は、講義
 や演習の「利用者の理解」「人権啓発に関する基礎知識」「基礎的な介護技術に関する演習」「医療的ケア
 を必要とする利用者の障害及び支援に関する演習」など。そして、実習の「外出時の介護技術に関する
 実習」「基礎的な介護と重度の肢体不自由者とのコミュニケーション技術に関する実習」など盛りだくさ
 んの内容。4日間でこのボリュームはなかなか大変ですが、受講生の皆さんには臆することなくキラ☆キラし
 た目で積極的に受講してくれたので、開講している私たちが「身を引き締めて頑張らないと！」と影響を
 受けることとなりました(^^;)

私がこの講座を担当するのは初めてだったのですが、全科目を通して思い浮かんだのが「初心忘るべからず」という言葉でした。初日の講座で「同じ問題は存在しない」「利用者の感情表現を大切にする」「利用者の感情を理解し、自らの感情を自覚する」「あるがままを受けとめる」「自らの判断を利用者に押し付けない」「利用者の自己決定を促して尊重する」「専門職としての職業倫理、守秘義務」といったバイスティックの7原則について学びました。学んだ中で「あれ？これって自分でできる？自覚できる？」と
 疑問が。改めて聞くと当たり前のことなんだけど、日々の支援の中で忘れてはいる気づいたのでし
 た。しかも、支援だけの話じゃなく、人と人が関わるうえで重要なことでもあると思いました。この原則
 を意識して他の講座を受けることは、大きなことだと感じた次第です。他の講座でも感じたことはたくさん
 あったのですが、スペースの都合上、報告は以上とさせていただきます。

今回、この講座に講師とゲストティーチャーとして参加していただいた皆さん、真摯に講座を受講してくれた受講生の皆さんには、事故や怪我もなく無事に終了できることに感謝いたします。開講した私たち
 が、素敵な出会いと体験をさせていただいた講座でした。次回はいつ講座を開催できるか未定ですが、興味を
 持たれた方は次回の講座案内の際にはお問い合わせ下さい！

(菊池 康治)

分身ロボット OriHime の可能性



分身ロボット OriHime(オリヒメ)って聞かれたことはありますか？手のひらサイズで白く丸みを帯びた可愛らしい見た目!?のロボットです。たまに「宇宙人みたい、、、」とかも言われますけど、若い女性達には「KAWAII～♡」とよく誉められています。頭と腕が動き、うなずいたり手を振ったりして感情を自由に表現することや、目の前の人と目線をあわせることもできます。そこがビデオ会議や通話と大きく異なるところです。

OriHime は、病気や障害、高齢などで外出が難しい人が、自宅にいながら“その場にいる”ように社会とつながることを可能にする、自分の身体の分身になるロボットです。だから「分身ロボット」と呼ばれてるんですね。

OriHime を通じて、病室から学校の授業や文化祭に参加したり、在宅療養中の人が会社の会議に出席したり、自宅から友人のライブに参加することもできます。多様な社会参加のカタチを生み出し続けています。

かくいう私も、この OriHime で思ってもみない経験をさせてもらっている一人です。

コロナ禍の2020年、製薬会社のオンラインイベントではじめて OriHime を使い、自宅から登壇させていただく機会がありました。操作はシンプルで PC から画面越しにその場の様子を見ながら、いくつかのボタンを押し、OriHime の動きをコントロールして話します。OriHime の生みの親である吉藤オリイさんの話に相槌を打ちながら、いくつかコメントするという内容でしたが、会場の様子も司会やオリイさんの表情もつぶさに分かるので、まるでそこにいるような臨場感があり、新鮮で気持ちが高まりました。

その際、オリイさんがプロジェクトを共に進める OriHime パイロット(操作する人の呼称)を募集されていて「どんなに重い障がいがあっても、寝たきりであっても人は働く」「価値を社会に提供できる」ということを世界に示す試みをするんだ！という彼のミッションに心を打ちぬかれ、応募し、2021年から公認OriHime パイロットとして活動しています。

OriHime パイロットになってから早4年、距離に関係なく新潟～福岡まで全国津々浦々飛びまわり、カフェの店員、展示案内、販売員、医学系学会での接客、企業入社式の司会、朗読劇出演など、多岐にわたりお仕事させて頂いています。新潟のラボで来館者とお話をしたあと、すぐに和歌山のアドベンチャーワールドで飲食店の呼び込みをして、その後原宿のモスバーガーで商品をお渡しする…なんてことが、今の私の日常になっています。まるでドラえもんの世界のように、一瞬で場所が切り替わり目の前の人とおしゃべりができる、空間を共有し、分身ロボットをログアウトしたら自室のベッドにすぐ倒れこむこともできます。時空を超えるテクノロジーは、体力のない私の選択肢を広げてくれています。

それまでは社会参加には移動がつきもので、自分の体をその場に持って行かないと成立しない、そう強く思いこんで疑問にすら思いませんでした。無理をして外出した後は2日寝込む、、と言ったことが当たり前になっていて、自分の身体機能の制限から、意識的、無意識的にも動ける範囲を決めつけていたんだなと思います。OriHime が生活の一部になってから、身体機能が自由にのびて拡張していく、そんなわくわくした感覚に包まれています。

コロナ禍でオンラインツールが浸透し、利便性も認識した社会の体制も変化しました。同時期スタートを切った OriHime の挑戦はニューノーマル時代、どこまで飛躍できるのか、端っこの方でそのうねりに参加してみたいと思っています。

最後に、10月まで万博内にあります「LOUNGE & DINING」というお店でご案内業務を担当しています。ぜひ、生OriHime と豪華ビュッフェを堪能しにいらしてください。

(今井 雅子)



すいしんきょう しんじんしょくいんしょうかい 推進協の新人職員紹介

● 上原 学さん スイミー(居宅介護)所属

みなさまはじめ ことし がつ ひじょうきんしょくいん なかま い うえはらまなぶ さい
皆様初めまして。今年6月からスイミーの非常勤職員として仲間入りしました上原学(39歳)
です。スイミーとの出会いは、2023年3月に推進協主催の重度訪問介護従業者養成研修講座
の受講でした。

それまでは他業種で、福祉に携わった経験がまったくなく、見るものや体験すること全てが新鮮で
知らなかつた世界を知れ、とても勉強になったことを覚えています。

これからいろいろな方々と出会い関わらせていただくにあたり、当たり前のことが当たり前にできる
よう、常に初心を忘れず、推進協モットーの「ためにではなくともに」を心がけ、1日1日を大切
にして、より良いサービスの提供ができるよう頑張ります。どうぞ皆様よろしくお願ひいたします。

じ つづ
(次ページへ続く)



● 小池麻紀子さん スイミー (居宅介護) 所属

5月1日付で入職いたしました小池麻紀子と申します。

前職は塗装会社、その前は旅行会社で働いておりましたが、もっと人と深く関わる仕事を就きたいと思い、福祉業界に転職を決意いたしました。経験がない分、先入観を持つことなく毎日新鮮な気持ちで働かせていただいています。

これから、利用者さんやともに働くスタッフとお互いを信頼し、助け合いながら楽しく過ごしていけるような人間関係を築いていきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

● 谷山美穂さん ライフタイムミント (相談支援) 所属

はじめまして。4月から相談支援事業所ライフタイムミントに仲間入りした谷山美穂です。箕面市に住んで5年、山が見える環境に毎日元気をもらっています。

相談支援の仕事はまだまだ勉強中ですが、暮らしの困りごとのお話を伺い、皆様と一緒に考えながらお役に立てるよう頑張って参ります。

どうぞよろしくお願ひいたします。



かいいんぼしゅう 会員募集

推進協は、今後も障害のある方々にとって暮らしやすい社会づくりに向けた活動をつづけていきます。

そんな法人の理念、活動方針にご賛同いただける方を引き続き募集いたします。



団体会員 : 1口 10,000 円

個人正会員 : 1口 2,000 円

個人賛助会員 : 1口 1,000 円

■お問い合わせは(072)723-3342 (担当:宮崎)



ぐるーぷほーむゆい ほうこく はる さんさく てづかおさむきねんかん G H 結イベント報告 ~ 春の散策・手塚治虫記念館 ~

あら 新たな年度が始まり、初めてのイベントを行いました。テーマは『入居者さんに電車に乗って外出＆買い物の体験を楽しんでいただこう』とし、今回参加の入居者さんは男性 11 名、職員・サポートー 3 名。グループホーム最寄り駅から宝塚駅まで電車移動、宝塚駅周りをグループ行動散策＆お昼ご飯は各自で清算(サポート付き)してもらおう、との予定にしつつ当日を迎えた。が、生憎の大雨。(やはり、雨男の菊○職員がいる影響か……？！)



天候には恵まれない中でしたが、桜井と牧落の各グループホームを出発。石橋阪大前駅で合流してから宝塚駅を降り、花乃みちを歩いて、宝塚大劇場前を通りながらチラシ散策を楽しみました。手塚治虫記念館に到着後、そこからはグループに分かれる予定でしたが、ショートアニメ鑑賞ができるミニシアター「アトムビジョン」に全員集合！！！(笑) 15 分ほどで見終わり、その後も館内がグループに分かれずに回れる規模もあり、大半の入居者さんがサポートー 2 名と団体行動。残りの 1 グループもゆっくり見回っていましたが、見終えるタイミングは団体グループと同じになり、結局は結のみんなで行動した感じになりました。



1 時間ほど館内を見ている間に雨は止んでおり、手塚治虫記念館の前で記念写真を撮り終えたので、お昼ご飯へ。すでに団体行動になっている流れで、そのままみんなで近くのガストへ行き、ミックスグリルや揚げ物の定食、カレーなど、それぞれが好みのメニューに舌鼓を打ち、楽しいランチになりました。「さあ、レジで清算を」と思っていると、ガストは個人清算の対応はお断りしており(リサーチ不足…orz)、入居者さんのお会計体験はできずに終わりました。お昼ご飯のあとは、宝塚駅周りを散策の予定にしていましたが、午前の雨による気持ちの疲れもあり、みんな帰宅ムードに。宝塚駅へ戻っている途中、『元祖やきもち』を家族のお土産にお買い物をする入居者もあり、それぞれの楽しみ方の春の散策イベントになりました。

去年の親睦旅行以来の入居者さんとの外出。雨天でバタバタと慌ただしくなるタイミングもありましたが、一人ひとり違った楽しみ方で笑顔になる場面が見られて、『楽しさを共有する』楽しみを感じられるのは、職員の特権だなあと思える 1 日でした。

(太古 自然)

～ 舞台を観る前にすることがありました。それは… ～

一度、舞台を観てみよう。という気持ちになった。
まず動画配信されている舞台ダイジェスト版で
「数分間でこんなにも惹きつけられるのか！！！」と
早くも心を掴まれ、上演作品を探すうちに、あれ
も観たいこれも観たいとなり、その後チケットを取
て…と観劇の準備を着々と進めていた。同時にあ
る情報を調べていくと、気持ちはだんだん落ち着い
ていくのである。それは何かというと劇場のバリア
フリー情報だ。

申し遅れたが、この記事を書かせていただくこと
になった私は四肢麻痺と言語障害がある。一言
でいえば体のすみからすみまで不自由で、出かける
ときは電動車イスに乗っている。

話をもどすと劇場の公式サイトには、フロアマ
ップにはエレベーターは載っていないけど車イスト
イレはある。また、劇場の Q & A では車イスで
観劇はできるようだが、座席など具体的な記載はなく
車イス使用者は事前に電話連絡を。とのことで
謎多き劇場。。。正直、バリアフリー情報は謎が

ないものを載せてほしいと思ったし、もしかして観劇できないかも??と不安も出てきた。
こんなときは電話で問い合わせるのが手っ取り早いが、いかんせん言語障害があり、慣れていないところ
への電話は難しい。電話連絡しないといけないときには現地に直接聞きに行くのだが、楽しみが目前な
にすることあるような、昔「おやつ食べる前に宿題しいやー」と言わされたときの、あのかるいがっかりが出
てくる。

モヤモヤしたものを抱えながら尋ねたり問い合わせたりするときは、ネガティブな感情を落として、どれ
だけ行きたいか。どれだけ楽しみにしているかを意識しながら話すようにしている。例えば、家族とケンカ
になるとき、最初から怒りでぶつけたら、そのうち売り言葉に買い言葉の感情の対立になってしまい、一体
何を怒っていたのだっけ??と原因が震んでしまうときがある。はじめから相手にネガティブな感情を出し
てしまうと、これと同じようなことになるかもしれないからだ。



(入口)



(裏口 車いすは、こっちから)



スで観劇したくてバリアフリー設備と対応について伺いにきました♪」になるだろうか。

いつも前もって聞きたい内容を書いていく。今回も劇場の窓口スタッフさんに、書いたものを見せながら尋ねていくと丁寧に対応してくださった。フロアマップに載っていなかったエレベーターは、別の場所にあり当日案内してもらえることに。なんとこのエレベーター、当日になってわかるのだが楽屋口から入る、とあるのだ。劇場の裏側を見られ、もしかして役者さんにあえる??とお得気分を味わえるとは、この時は知る由もない。また、電動車イスから座席に移って観劇することもでき、トイレに行くときは電動車イスを使いたいことを言うと、座席近くで預かってもらえることになった。そして、車イス使用者の事前連絡を、電話ではなくメールでも可能かという旨も話してみた。窓口スタッフさんが劇場内スタッフさんに相談してくださったようで、今後観劇するときの事前連絡はメールでしてもいいことになり、問い合わせフォームがどこにあるかも教えていただけた。心のどこかで「誰かに電話をかけてもらってください」と言われるかもしれないと思ってだったので、劇場のこの配慮は瓢箪から駒で出たみたいだった。

こうして観劇にいたるまでを文書にしてみたら、舞台を観るのにチケットを取るだけではなく、劇場のバリアフリーとサポートしてもらうことが関係してくるとあらためて感じた。けれど、これからも行きたい場所や、やりたいことに、もし不安に思うことがあっても「楽しみにしてるのですが♪お聞きしたいことがあります♪」と足を止めずに楽しみを増していこうと思う。

むり無理やりポジティブになるのでも、ネガティブな感情を完全に消し去るのでもなく、今回でいうと、少ないバリアフリー情報に対する不安と、現地へ行かないといけない億劫さの奥に隠れているものは、安心して観劇したいということ。この本当の気持ちだけで舞台が楽しみにしているのを全面に出しながら、電動車イスで観劇するのに必要なことや望むことを尋ねていく風になる。これを文字で表現すると「舞台の沼にハマりかけてる者ですが♪電動車イ



(高井 恵子)

わたし ちいき かつどう ★ 私たちは地域でこんな活動をしています★

きよたくかい ごとうじぎょう 居宅介護等事業



ちいき く
地域で暮らす
しようと
障害のある方に
かた
在宅支援や
ざいたくしえん
ガイド支援を
しえん
おこな
行っています。

そうだんし えんじぎょう 相談支援事業



せいかつ なか
生活の中でのさまざま
こま
な困りごとについて
はなし うかが
てお話を伺い、
ひつよう じょうほう つた
必要な情報を伝え
えています。

きょうどうせい かつえんじぎょう 共同生活援助事業



じしゅ せい たいせつ
自主性を大切に、
さまざま てだす
様々な手助けを
おこな
行いながら地域
せいかつ しえん
生活を支援してい
ます。

た じぎょう その他の事業



ほか たいがいてきこうほうし
他、対外的広報誌の
かんこうじぎょう
刊行事業、ヘルパー
けんしゅうじぎょう おこな
研修事業などを行
っています。
きゅうしちゅう じぎょう
※休止中の事業も
あります。

■法人案内■ そだん いらい か きじむしょ と あ
ご相談、ご依頼は下記事務所へお問い合わせください。

●法人本部

じっしじょう きよたく じゅうど ほうもん いどうしえん どうこうえんご
実施事業: 居宅・重度訪問・移動支援・同行援護のヘルパー派遣事業・相談支援事業・共同生活援助事業

おおさかふみの おしみの お ちょうめ ばん ごう
〒562-0001 大阪府箕面市箕面4丁目8番30号

【居宅・重度・同行・移動・G H】TEL: (072) 723-3342 FAX: (072) 723-6506 Email: JDW07270@nifty.com

【相談】TEL: (072) 720-6806 FAX: (072) 723-6506 Email: life-time-mint@mbr.nifty.com
こうしきほーむべーじ

公式 H P : <https://www.suisinkyo.com>

【編集後記】

歴史と役割は繰り返すということで約3年ぶりに通信担当/編集後記記入となりました。当法人の
通信も軸足をそれまでの紙媒体からメール配信に移しつつありますが、「通信により当法人の活動
を多くの方々に伝達し支持と叱咤激励を得る」という目的と使命は堅持したいと思います。(福永)
119号まで掲載していました『コラム 優飢極道の鬼怒愛落仁聖』ですが、諸事情により終了す
ることになりました。皆さま、お体を大事に、心も身体も大切です。続編をご希望の方は直接連絡
ください。連絡先は喜苦隣までどうぞ。

とうほうじん
とうほうじん かつどう
とうほうじん かた
ふくなが
ゆきやーさん
きどあいらくじんせい
しょじじょう
しゅうりょう
(優飢極道)

へんしゅうにん とくてい ひ えいり かつどう ほうじん みの お し しょがい しや せいかつ ろうどう すいしん きょう うき
編集人／特定非営利活動法人 箕面市障害者の生活と労働推進協議会

おおさかふみの おしみの お ちょうめ ばん ごう でんわ ふあっくす
〒562-0001 大阪府箕面市箕面4丁目8番30号 電話072-723-3342 FAX072-723-6506(担当:太古・影山・福永)

いめーる E-mail: JDW07270@nifty.com ゆうびんふりかえ こうしきほーむべーじ
郵便振替:00990-4-116066 公式 H P : <https://www.suisinkyo.com>

はっこういん かんさい しょがい しや いき かんこう ぶつ きょうかい
発行人／関西障害者定期刊行物協会 おおさかしてんの うじくさんだ やまちよう
大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4階

一九九一年九月三日

第三種郵便物承認

毎月 (1・2・3・5・6・8の日)

発行 定価百円